平成20年７月29日

各　位

会 社 名　ペガサスミシン製造株式会社
代表者名　代表取締役社長　清　水　盛　明
（コード番号：6262　東証第一部）
問合せ先　常務取締役管理本部長　貝　野　武　志
（TEL. 06-6451-1351）

平成21年３月期　業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年５月12日に公表いたしました平成21年３月期（平成20年４月１日～平成21年３月31日）の業績予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせ申し上げます。

記

１．　連結業績予想の修正

（１）第２四半期累計期間の予想数値の修正（平成20年４月１日～平成20年９月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	7,130	780	680	340	14.51円
今回修正予想（B）	6,140	50	40	△70	△3.02円
増減額（B－A）	△990	△730	△640	△410	－
増減率（%）	△13.9	△93.6	△94.1	－	－
（ご参考）前期第２四半期実績（平成20年３月期第２四半期）	9,186	1,706	1,655	1,247	52.86円

（２）通期の予想数値の修正（平成20年４月１日～平成21年３月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	15,260	1,980	1,840	1,160	49.50円
今回修正予想（B）	12,890	370	320	80	3.46円
増減額（B－A）	△2,370	△1,610	△1,520	△1,080	－
増減率（%）	△15.5	△81.3	△82.6	△93.1	－
（ご参考）前期実績（平成20年３月期）	16,615	2,349	2,083	1,357	57.57円

２．　個別業績予想の修正

（１） 第２四半期累計期間の予想数値の修正（平成20年４月１日～平成20年９月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	4,600	△140	170	30	1.28円
今回修正予想（B）	3,720	△460	△100	△140	△6.04円
増減額（B－A）	△880	△320	△270	△170	－
増減率（%）	△19.1	－	－	－	－
（ご参考）前期第２四半期実績（平成20年３月期第２四半期）	5,555	497	966	939	39.83円

（２） 通期の予想数値の修正（平成20年４月１日～平成21年３月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	9,500	30	650	400	17.07円
今回修正予想（B）	8,040	△560	110	10	0.43円
増減額（B－A）	△1,460	△590	△540	△390	－
増減率（%）	△15.4	－	△83.1	△97.5	－
（ご参考）前期実績（平成20年３月期）	9,627	400	855	672	28.53円

３．　業績予想の修正の理由

(連結)

米国のサブプライムローン問題による国際金融市場の混乱に伴い、主要先進国の景気が減速しているなか、一方で原油や原材料価格の高騰によるインフレリスクを抱え、新興国においても経済成長を下押しする状況となっております。

衣料品の巨大市場であります米国の消費冷え込み懸念により、縫製メーカーの設備投資意欲の減退が世界的に顕著となっており、当社企業グループの工業用ミシンの売上高は当初の予想を大きく下回る見込みであります。下半期においては、ある程度市場環境が好転すると見通しておりますが、通期業績につきましても、厳しい見方が必要であると判断しております。

収益面においては、売上高の減少に伴う生産量の縮小が操業度の低下となり、その結果、売上原価率上昇により収益が悪化しております。

これにより、第２四半期連結累計期間は赤字計上を余儀なくされる見込みであり、通期においても前回発表予想を下回る見込みであります。

このような厳しい環境ではありますが、当社企業グループでは、中国製造子会社の合併による合理化効果の早期実現、中国販売体制の見直しによる中国国内での販売力の強化、現在進めておりますベトナム生産体制の早期稼動、滋賀工場を含めた当社の一層の効率化・合理化、さらには研究開発力の一層の充実を通じて、全社挙げての売上高の確保、採算改善に努めてまいる所存であります。

加えて、既に生産・販売を開始しております天津ペガサス嶋本自動車部品有限公司の増産計画を着実に推進し、当社企業グループの業績を支える柱として早期に育成していく所存であります。

（個別）

連結業績予想の修正に伴い、当社企業グループとの取引が減少することから、売上原価率が大きく上昇することにより収益が悪化しております。

これにより、第２四半期累計期間は、売上高は前回発表予想を下回り、収益は赤字となる見込みであります。

通期においては、経費・労務費などの圧縮を徹底して行いますが、売上高・収益とも前回発表予想を下回る見込みであります。

（注）上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以　上